

■放射能に関する情報

農家の皆さんへ 米の「全量全袋検査」にご協力ください



▲米の検査の様子

平成24年産米から、放射性セシウムの新基準値が適用されます。これにより、1kg当たりの米に含まれる放射性セシウムが100ベクレルを超えた場合、流通・販売ができなくなります。
基準値を超える米を市場に流通させず、消費者に安全な米を届けることは産地の責任であり、福島県産米に対する信頼の回復につながります。また、皆さんが毎日食べる米や親戚等に贈る米も、同様に安全を確認する必要があります。
このため、県では、県内で生産される平成24年産米（自家消費米・縁故米を含む）を対象に、放射性セシウムの「全量全袋検査」を実施します。農家の皆さんにはお手数をお掛けしますが、平成24年産米は必ず全ての米袋を検査したうえで、販売、譲渡、消費等をしてください。
☎本庁舎農政課 ☎②1111 内2224

住宅のホットスポット除染を受け付けています



▲測定の様子

市民の皆さんがお住まいの住宅敷地で、局所的に空間放射線量が高い箇所（ホットスポット）の土砂等を、同一宅地内に一時保管できる場合に限り、市が除染を行います。

- 対象箇所
宅地内で地表面から1mの高さの放射線量が1時間あたり1マイクロシーベルト以上となる箇所（雨どいの下など）。対象面積が広い場合には、放射線量が特に高い場所のみ除染を行います。
- 除染方法
原則として、対象箇所の表土を約50cm四方除去し、同一宅地内に埋設します。除去した土砂は市の仮置場が設置され次第、速やかに搬出します。なお、高圧洗浄など、水を使う除染は行いません。
- 受付方法
予約専用電話（☎②0606）で受け付けます（受付は平日の午前9時から午後5時まで）。
※事前に放射線量を測定し、基準の線量を確認した場合、後日除染を行います。線量測定および除染の実施は平日のみで、立ち会いをお願いします。
☎本庁舎放射線対策室 ☎②0606 / 各庁舎市民福祉課 表郷 ☎③2113 大信 ☎④3974 東 ☎④2113



▲除染作業の様子

徳島大学教授による放射線講習会

職員が放射線について学ぶ

8月10日、市役所で職員を対象にした放射線講習会を開催しました。今年の5月に「震災復興に向けた連携・協力に関する協定」を締結した国立大学法人徳島大学（徳島県徳島市）の協力のもと、同大学から中山信太郎教授を講師に迎え、放射性物質の除染などの基礎知識を学びました。

この講習会は今後、各小・中学校で、教職員、保護者、生徒等を対象に開催する予定です（各学校を通じてお知らせします）。



▲講習会の様子



—実行委員会の方にイベントについて伺いました。

「Shirakawa Week 14days」の概要を教えてください。

白河を離れた学生や社会人が、白河に住む子どもたち（小・中学生、高校生）と学習支援を中心に交流するイベントです。

期間中、どのようなイベントを行いましたか。

- 市内の学校に通う小・中学生、高校生に、学習支援や進路相談を行いました。学習支援以外にも次のような交流イベントを行いました。
- ▷小学生がカメラを持って旧市内を歩き、撮影した写真を使って自分目線の地図を作成する「白河探検ツアー」(マイタウン白河)
- ▷元オリンピック選手の新宅雅也さん（マラソン）による実技指導と講演（中央体育館）
- ▷泉崎村出身の若手料理研究家、本田よう一先生による料理教室（マイタウン白河）
- ▷被災地等に支援を行う関東や東北の学生団体を集め、情報交換や今後の活動の方向性を考える「学生フォーラム」の開催（市立図書館）など

8月12日にはイベント全体の総括として、「白河の未来～地方・雇用・若者～」をテーマにシンポジウムを開催、遠藤委員長の進行で、社会学者の開沼博氏、東京のウェブ制作会社に勤務している水野聡子氏（本市出身、東京大学卒）、六次産業をテーマに活動する服部正幸氏、鈴木和夫市長の4人で議論を交わしました。

来場者が100人を超える有意義な会議となりました。



写真提供：三浦美樹さん（立教大3年、福島市出身）

—Shirakawa Week 14daysを開催—
未来につなぐ

7月30日から8月12日までの2週間、「Shirakawa Week 14days」が開催されました。

このイベントは、20代の若い世代による自発的な取り組みで、世代を超えた交流と20年後を見据えた地域づくりを目的としたものです。

今月号では、この画期的な取り組みを紹介します。



▲Shirakawa Week 14daysの遠藤健実行委員長と班百康平副実行委員長（右）。右側の画像はイベントのロゴマーク



14日間のイベントを終えての感想を聞かせてください。

延べ100人以上の子どもたちに参加していただきました。白河には高等教育機関がなく、子どもたちと学生や社会人が触れ合う場所や機会がありません。その部分を補うための企画でもありました。

子どもたちが私たちと触れ合うことで、より興味や進路選択の幅を広げてほしいです。

また、イベントの開催にあたり、白河を離れた学生や社会人を中心に、多くの方に協力していただきました。離れてしまうと、地元の情報や関わる機会が乏しくなり、そこに意識が向きづらくなります。今回の企画では、地元を離れた若い世代にとって、地元とつながれる、向き合える場としての意味を持ちました。

白河を離れていても、地域づくりに参画できる場所と機会を今後も作っていきたいと思います。

今後の活動を教えてください。

9月20日(木)から23日(日)に、大学生を対象とした「表郷農業インターンシップ」を行います。詳しくはお問い合わせください。

☎しらかわ市民活動支援会 ☎班目 ☎③7595